

54 エミール・ギメが見た明治の日本（2021年5月6日）

パリにあるギメ東洋美術館を創設したエミール・ギメ（1836-1918）は、リヨンの実業家の息子として生まれ、若い頃から異なる文明や宗教に関心を持っていました。父親から引き継いだ工場を経営しながら、1867年のパリ万国博覧会や1873年にパリで開催された第一回国際東洋学者会議へ出席したことで日本の情報に直接触れる機会を得ました。そして、1876年にフランス政府の「極東宗教学術調査使節」として、日本、中国、インドをめぐる世界一周の旅に出ました。ギメは、画家のフェリックス・レガメを伴って、1876（明治9）年に2か月間、日本に滞在しました。



Emile GUIMET
エミール・ギメ

ギメは、日本滞在中に見聞して体験したことや訪れた土地にまつわる歴史や民間伝承を、レガメの挿絵入りで「日本散策」(Promenades japonaises) 二巻にまとめました。私は、後編に当たる「日本散策 東京-日光」(Promenades japonaises Tokio-Nikko) の現代日本語訳を読みました。この本では、19世紀末の明治の日本人の行動や宗教観について、エジプトやインドといった他国との比較も交えながら、ギメ独自の興味深い分析がなされています。フランス人の目を通した当時の日本人の描写を読みながら、150年近く前の日本にタイムスリップしたような気分になりました。



Nihonbashi à Tokyo
à l'époque de Meiji (1868-1912)



Ueno à Tokyo
à l'époque de Meiji (1868-1912)

著書の中で、ギメは次のように語っています。

「日本は、自国の風俗に対し、あまり自信を持っていない。日本人の力となり幸せの源となってきた多くの風俗、制度や考え方をあまりにも性急に一掃しようとしている。だが、もしかしたら日本が自分たちを見直すときが、いつの日か訪れるのではないだろうか。私は日本のためにそれを願っている。」

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

ギメの鋭い観察力に驚きました。当時の日本は、日本よりも外国の文化が優れていると考えて日本の伝統文化を捨て去ろうとし、多くの美術品や仏像が海外に流出しました。ギメの手に渡った日本の美術品は、幸いにもギメ東洋美術館のコレクションとして現代に引き継がれています。次回ギメ東洋美術館を訪れる際には、ギメの日本に対する思いを想像しながら見学したいと思います。

